

N.K.Cナーシング コア コーポレーション

事業の特徴・ポイント

- ・介護保険では柔軟な対応が難しい病院受診・外出への付き添い、見守りを看護師等の有資格者が行うという新たなビジネスモデルを構築。地方都市の課題である「遠距離介護」問題を、看護師等によるきめ細かなサービスで解決。
- ・潜在看護師の活躍の場を創出するだけでなく医療機関への現場復帰も支援し、地域の人材確保にも貢献。

事業概要

◎N.K.Cナーシング コア コーポレーションについては、<http://hp.kaipoke.biz/dx9/>、<http://my-nurse.jp/>

1. 自らの介護経験をもとに新たな介護ビジネスを考案

代表の神戸氏は、自らが潜在看護師(育児や介護等で休職中の元看護師)であった20代後半に、親戚の介護を引き受けることになり、子育てと介護の両立で苦労した経験を持つ。体力的な負担が大きく、ヘルパーに病院への付き添いをお願いしたいと思っても、介護保険でカバーされる範囲は限られ、頼めないことが多く不便を感じていた。それから10年が経ち、自身が育児と介護を無事に終えた後も、周囲の同世代の友人たちも同じ悩みを抱えており、10年経っても状況が何ら変わっていないことを知り、米子市内で介護保険が適用されない病院受診・外出への付き添い、見守り等に対応するサービス「わたしの看護婦さん」を立ち上げた。

2. キャリアブランクがある潜在看護師が働きやすい環境づくり

全国的に介護保険適用外のサービスを行う事業者は存在したが、看護師免許を有するスタッフがサービスを担うという新たなビジネスモデルを確立。スタッフには潜在看護師を活用、仕事に復帰しやすくするため、週2~3日勤務から働きたい時間に働けるように体制を整えた。また、ブランクがある潜在看護師にとっては、医療行為をしない、医療器具を扱わないことが、安心して仕事に復帰ができる要因となっている。スタッフは口コミや現スタッフの紹介により発掘。利用者の家に入る仕事であり、信用が第一であるため、人柄を重視して採用を行っている。採用後は、鳥取大学の協力を得て最新の機器で実地研修を行い、さらに希望者には鳥取大学のプログラムを受講させる等、人材育成にも注力している。さらにN.K.Cでは、スタッフが数年従事した後、看護師として医療現場へ本格復帰する際には職業紹介も行っており、看護師本人に対するサポートのみならず、地域医療にも大きく貢献している。



3. 新しいサービスを地域に普及させるために

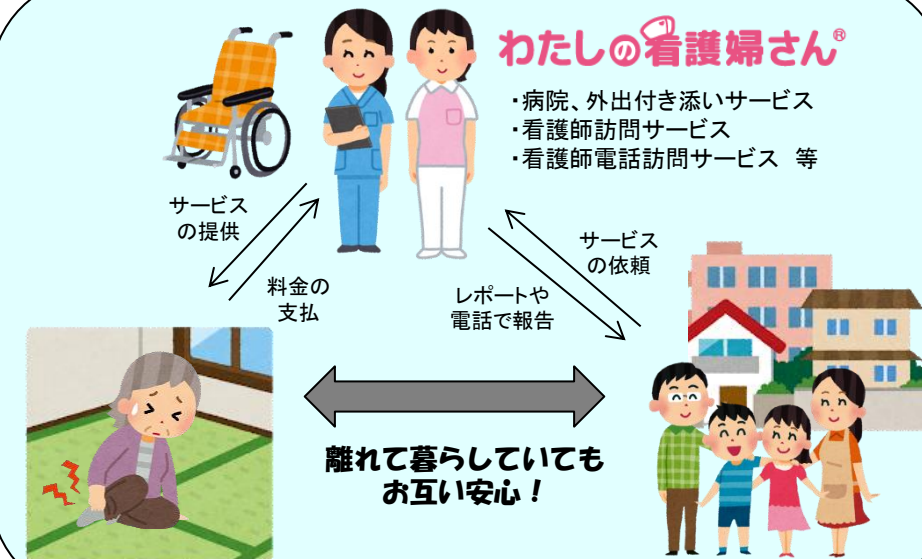
事業を立ち上げたものの、実績のない、新しいサービスに対する警戒心や、介護保険適用外のサービスであるため全額自己負担で割高感のある料金設定が原因となり、当初は利用者が思うように集まらなかった。そのため、介護保険適用事業許可を取得し、事業内容を拡充。保険適用サービスと組み合わせることで、従来より安く利用できるようになっただけでなく、保険適用の有無に関係なく、利用者にとってサービス提供事業者が一本化され、利便性が向上。顧客のニーズを汲み取り、地域に根付いたサービスを提供していくにつれ、少しずつ着実に利用者が増え、評判が口コミで広がっていき、現在では本社がある米子市を中心に、鳥取市や松江市等の幅広いエリアで50人を超える方々に利用されるようになっている。



4. 迫る「2025年問題」に向けて

遠方にいる親を家族が介護する「遠距離介護」。介護を担う家族にとって、交通費の負担に加え精神的な負担も大きく、容体の悪化や急変に対応ができない等様々な問題がある。団塊の世代が75歳以上になる2025年には、介護が必要な高齢者が爆発的に増え、遠距離介護に悩む方々が増えると予想される。神戸氏は「わたしの看護師さん」を全国に展開していきたいと考えている。このサービスが全国的に広がれば、遠距離介護に悩んでいる方々の負担が軽くなるだけでなく、全国に71万人いると言われている潜在看護師のキャリアブランクの解消や医療現場への復帰にも繋がり、医療・介護人材の確保にも大きく貢献できる可能性を秘めている。

主なサービス内容・流れ



事業の課題・今後の展望について

ナーシングコアという社名の“コア(KOA)”は、ハワイの言葉で“挑戦する”という意味を持つ。起業するにあたり「常識を変えたい」という思いを込めて名付けた。

常識を変える挑戦として、ITを活用して、時間単位で潜在看護師と利用希望者をつなぐシステムができないかと検討している。将来的に、誰にでも使いやすいマッチングの仕組みを構築し、「わたしの看護婦さん」を全国で利用できるよう取組みを進めていきたい。

産業経済研究員からの一言

少子高齢社会の経済社会の活力を維持するため、国は、「人生100年時代構想会議」において、子育てや介護などの不安を解消する重要性に言及している。晩婚化や核家族化に伴う「育児と介護の両立」(ダブルケア)や単身世帯の増加に伴う「介護予防の観点も含めた身体的・精神的な自立の支援」は、今後、大きな課題になる。同社は、「介護保険適用および同保険適用外のサービス提供」と「職業紹介」の各事業を展開しているが、看護師の経験を活かすことで、利用者に適切なサービスと安心感を提供できるだけでなく、専門職の目線から、地域固有の課題を導き出し、新たなサービスの創造と水平展開、さらには公的制度改革の寄与する主体になることも期待される。

就業にブランクのある潜在看護師にとって、日進月歩の医療現場に復帰する不安は大きい。潜在看護師が望む仕事や働き方を尊重し、登録スタッフとして無理のない働き方から医療の第一線に復帰するまでの道筋を用意し、活躍のステージに応じた人材育成を行うなど、多様な活躍を段階的に応援する仕組みは、地域の貴重な人材を最大限に活かすプロジェクトともいえる。